

## 世界は自律を模索する

## 外交

Diplomacy

Vol. 98 2026  
Jul./Aug.

今月の表紙

分断される世界の中で、G7の意義が説く問われる。エヴィアンサミットでは、新たな紐帯のかたちも見えてきた。  
(内閣広報室)

6

「自由で開かれたインド太平洋」は  
いかに進化したか 細谷雄一（慶應義塾大学）

誌上シンポジウム・鶴岡路人（慶應義塾大学）、

溜和敏（中央大学）、鈴木絢女（立教大学）、川島真（東京大学）

「自律」の時代 新たな国際秩序形成に向けて

カーニー演説はミドルパワー連携に資するか

ステイブリン・ナギ（国際基督教大学）

「二つの時間軸」に揺れる欧州の安全保障秩序 合六 強（松山大学）

開発金融から見たアジア諸国の自律戦略と日本外交 西沢利郎（アジア開発銀行研究所）

イラン戦争で影響力回復を目指すパキスタン 栗田真広（中央大学）

OPEC脱退UAEの対外行動原理 堀抜功二（日本エネルギー経済研究所中東研究センター）

東アフリカ地域は高成長で経済を牽引 高橋 史（住友商事グローバルリサーチ）

同志国連携のハブ「NATOプラス」構想 中村浩平（NATO日本政府代表部）

日本の同志国連携 国際公共財としてのTPP 相良祥之（地経学研究所）

76

AZECアジア脱炭素「自律」の戦略性 加藤真也（名城大学）

82

資源大国・豪州と日本その相互補完性の模索 シロー・アームストロング（オーストラリア国立大学）

88

ブータンの国家経営戦略とインド太平洋協力 安部憲明（在インド大使館）

94

対談・佐橋 亮（東京大学）×高原明生（東京女子大学）

米中首脳会談と「構円化」する世界

習近平主席「左傾化」で北朝鮮接近 西村哲也（時事通信社）

G7ヒューストン・サミット 主導的ミドルパワーとしての欧州と日本

セリーヌ・バジヨン（仏国際関係研究所）

●カーク・キャンベル前・米商務副長官インタビュー  
米国の不安定な時期へ、アジアへの関与は続く 時事通信ワシントン支局

英二大政党制の終焉を告げる「活断層」 力久昌幸（同友社大学）

NPT運用検討会議が突き付けたジレンマ 向和歌奈（金沢大学）

ドイツ安保理非常任理事国選敗北の衝撃 藤原孝思（朝日新聞）

ペルー・ケイコ新政権は政治危機を克服できるか 村上勇介（都立大学）

## TREND 2026

138

134

128

122

114

108

106

94

連載

外務省だより

ブックレビュー 吉田徹（同志社大学）

新刊案内

153

英文目次

IN&amp;OUT